

# 穂高森林レクリエーション地区内における 標識類のあり方についての一考察

神岡営林署 栃尾担当区主任 辻ノ内 良 明

## 1. はじめに

穂高森林レクリエーション地区の利用は、山岳地域と山麓保養地域に分かれ、北アルプスの雄大な自然を背景としたレクリエーションの場として利用されています。

自然環境の保全と利用者の安全に重点を置き自然景観の観賞、自然探勝、キャンプ、登山、宿泊等を主体に利用者の保健休養及び教養を目的とした健全なレクリエーションの場とすることを目標としています。

レクリエーションの森が人間を対象としたものであるからには、その目的を十分に達成するための利用者の人間管理が当然重要な課題となってきます。

日本人は、公共の共有物を有効に利用することが下手であると云われており、レクリエーションの森についても、景観を楽しむと共に、その意味を的確に利用者に理解してもらうことも正しい利用を促進することにつながると思います。

そのためには、教育啓もう活動のための標識、小冊子などを作成し、あらゆる機会にあらゆる手段を駆使して多くの人々に働きかける必要があります。

自然環境の保全、利用者の安全、人間管理教育、啓もう活動をするうえで重要な役割をします。

穂高森林レクリエーション地区の標識類は利用者が多種多様化するなかで、現在その役割を十分に果たしていないのではないかと、問題意識を持ち、そこで当地区における標識類の現状を調査、点検し、実際の利用者の動向観察及び隣接地区の上高地における標識類を参考にし、これからの穂高森林レクリエーション地区の標識のあり方について考察しました。

## 2. 穂高森林レクリエーション地区の現状

穂高森林レクリエーション地区の現状は、年間40万人前後の来訪者（ロープウェイ利用者35万人、登山者1.2万人、附近散策者3.8万人（上宝村観光利用者120万人））があります。

利用者は、家族づれ、中高年層が大半を占め加えて外国人の来訪が増加傾向にあります。

林内には道標、案内板、注意標識、樹名板など設置されていますが全体的に標識の老朽化が進んでおり、修理又は取替えが必要です。

注意標識は、至る所に設置されていますが、文が長く文字ばかりであるためか、これを見過ごしていく者が多い現状です。

また、とりわけ歩行を急ぐあまり、美しい自然を見ないで通りすぎて行く傾向にあります。

樹名板は昔樹木に直接クギを打ち設置されているものも残っており問題です。

当署において、看板を作成しておりその技術は優秀で、新穂高ロープウェイの看板は利用者にとっても人気があって、ここを訪れる人達の殆んどが記念撮影をしています。

案内板は最近になってようやく設置されつつありますが地域や林地の特徴を説明したものや注意標識は、全体的に数が少なく、場所によって多過ぎるところもあり、バランスがとれていないのが現状です。

標識整備にあたり、登山道維持連絡協議会、地元村、山小屋等と連携し活動を進めています予算が少なく、その整備は遅れがちです。

### 3. 上高地の例

上高地の現状は、年間130万人の来訪者があり、これに対して林内にビジターセンターを設置して標本、生態系の説明、森林の機能や使命、地質など広い範囲にわたる展示、解説のほか映画、スライド等の視聴覚的手段を通じ自然界の機能など自然教室を開いており、林内のいたるところに道標、案内板、注意標識、説明板、樹名板などが設置されています。

道標については、日本語のほか英語も使用されており、また、目的地までの距離も表示されています。

案内板は、要所に設置されその図は目的地までの距離もわかるようになったものもあります。

自然研究路などの要所には、野外教室的な役割の手段として説明板が設置されています。

注意標識は林内の至るところに見受けられますが、そのなかに誰が見てもわかるような図化した標識があります。

樹木には、その名前と解説、花、実などの写真をのせた樹名板が設置されており、総体的に上高地においての標識類は経費がかかっています。

標識の整備はかなり進んでいますが、やはり文が多く単発的で、デザイン等の表現にもう少し力を入れたらと思った次第です。

### 4. 穂高森林レクリエーション地区での対策

当地区の現状と上高地の例を報告しましたが、穂高森林レクリエーション地区において今後誰が見てもわかるような標識を設置することが大切と考えます。

この地区には、年齢、性別、国籍の異なる人達が来訪しますので、次のことを考慮した標識を

設置したいと思います。

読む文化から見る文化へ転換しつつある現在、長ながと法令の趣旨や規制などを細き連らねるより一目でわかる絵の方が期待でき、文は出来るだけ図化する方がよく又、自然感覚に富んだ設計、設置でなければなりません。

レクリエーションの森の設定の目的は、単に遊んだり、楽しんだり、くつろぐためのものだけでなくそれらの目的を達すると同時に学問、野外教育的な役割を果たしていることから、こういった場所の要所には林地の説明、写真を撮る場所の位置、動物たちが近くにいることを知らせる標識などがあれば、一層レクリエーションの森の目的にあった活用がはかれると思います。

穂高森林レクリエーション地区には、ブナ原生林、サワグルミの純林、ヨーロッパの風景を思わせる穂高牧場等の素晴らしい風景がありそれらの箇所には標識を設置することを考えています。

その一例としてブナ林に設置する説明板を考えてみました。

風景林を設定、提供するだけでなくより良く利用してもらう手段を考えなければなりません。

ここを訪れる人達の中には、こうした場所が何処にあるのかわからない人、見過して行く人、この美しさを感じてもどういった林であるかわからない人がいますので、わかり易い標識を考えました。

実際に自分の目で見ることの方が大切で、そこに年輪板や果実などを展示するようにします。

## 5. おわりに

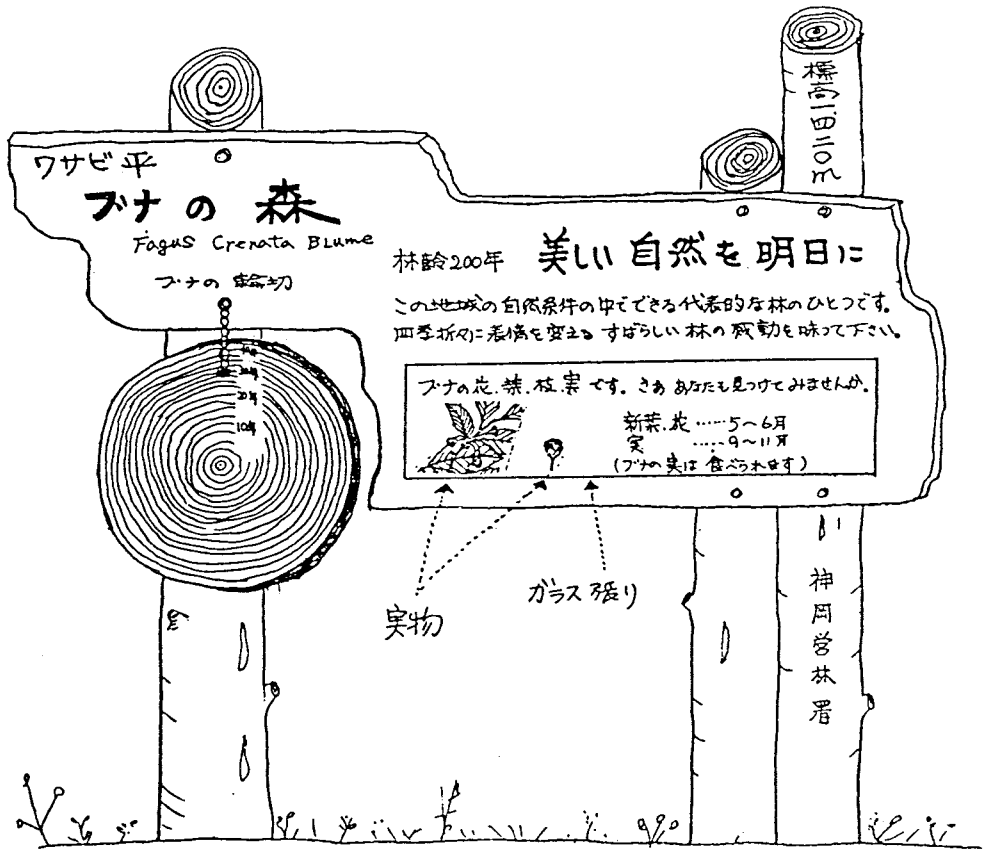
このような説明板の設置により、野外教室の補助的役割も果たし、また、見過ごして行く人も少なくなるのではないのでしょうか。

訪れた人達が記念写真を撮るときも、こういったものと一緒に撮りたいものです。ベンチや花壇、石などを配置出来れば最高です。この標識は、ここを訪れる人達に大いに利用されることと思います。

この考察をもとに道標、樹名板、注意標識等についても考えていきたいと思っています。

これを機に、利用者、行政当局の意見及び職員の英知を結集してより漸新な標識作りに取り組みたいと考えていますので識指導の程よろしくお願い致します。

(ブナ林の説明と同時に野外教室の補助的役割をする標識)



誰が見ても分かるよう  
に図化した注意標識



道標

日本語のほか英語、目的  
地までの距離が表示されて  
いる。

上高地自然研究路にお  
ける説明板

